

地理歴史科 学習指導案(地理 A)

府立西寝屋川高等学校

1. 日時 令和元年 11 月 19 日 (火) 第 4 時限 11 時 35 分～12 時 25 分

2. 場所 本館 2 階 第 1 学年 2 組教室

3. 学年・組・教科(科目) 第 1 学年 2 組 (39 名)・地理 A

4. 単元名 ヨーロッパ 使用図書は、教科書：『高校生の地理 A』P92-101 (帝国書院)

5. 単元(題材)の目標

ヨーロッパの地誌についての知識を習得した上で、EU に加盟することのメリットとデメリットを理解し、イギリスの EU 離脱の是非について考え、他者と意見交換することで互いの考えを深める。

6. 教材観

この単元は、高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)「地理総合」の内容 B 国際理解と国際協力(1) 生活文化の多様性と国際理解 ア(ア)、イ(ア)に対応している。

ヨーロッパをひとつのまとまりとして捉える視点を重視しながら、自然環境、気候、生活文化、宗教、民族、歴史、農業、工業の特徴を理解し、さまざまな問題を抱えながらも平和と発展のために統合を進めていくヨーロッパの情勢を理解できるようにする。

7. 生徒観 ※省略

8. 指導観

ヨーロッパ地誌について、説明内容を精選するとともに、視聴覚教材も活用しながら理解させるようにする。また、ワークシートを活用しながら、生徒自身が知識を活用できているかを確認できるようにする。そして、「イギリスの EU 離脱に賛成ですか？反対ですか？」という単元を見通す問いに対して主体的に考察できるようにする。

9. 単元(題材)の評価規準

a 関心・意欲・態度	b 思考・判断・表現	c 資料活用の技能	d 知識・理解
ヨーロッパの地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	ヨーロッパにおける自然及び社会的条件との関わりや、地域の結び付きなどに着目して、地域的課題を多面的・多角的に考察し、適切に表現している。	ヨーロッパの地域的特色に関するさまざまな資料を読み取ったり、まとめたりしている。	ヨーロッパの自然、気候、言語、宗教の分布、農産物、工業立地などを理解し、その知識を身に付けている。

*○必要に応じて評価する (指導に生かす評価)

◎全生徒を評価する (記録に残す評価)

10. 単元の指導と評価の計画 (全3時間)

時	学習内容	評価の観点*				主な評価規準・評価方法
		a	b	c	d	
第1時	・ヨーロッパの自然 ・キリスト教に根ざす文化	○			○	【a】ヨーロッパの地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。(観察・ワークシート) 【d】ヨーロッパ各国が多様な自然環境を背景に、伝統的な生活様式を確立してきたことや、ヨーロッパの言語や宗教に共通性があることを理解する。(ワークシート)
第2時	・ヨーロッパの農業と食文化 ・ヨーロッパの工業		○		○	【b】なぜ現代のヨーロッパでは大型旅客機を国際分業で生産するかを考察できる。(ワークシート) 【d】自然環境に関連して農業の特徴が異なり、食生活に影響を与えていることや、工業においてEU各国が協力して一つの製品を作り上げていることを理解する。(ワークシート)
第3時 本時	・ヨーロッパの統合		◎	○		【b】もし自分がイギリス国民ならEU離脱に賛成か反対かを選択し、その理由をまとめ、相手に説明できる。(ワークシート) 【c】工業や金融が盛んな西ヨーロッパで賃金が高く、東ヨーロッパから多くの移民が働くためにやってくるということがわかる資料を正確に読み取り、まとめることができる。(ワークシート)

※観点【a】以外については、後日定期考査を行い評価する。

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

第1、2時で学んだことや諸資料から読み取った情報をもとに、イギリスのEU離脱に賛成か反対か、理由をふまえて説明することができる。

(2) 本時の評価規準

【c】工業や金融が盛んな西ヨーロッパで賃金が高く、東ヨーロッパから多くの移民が働くためにやってくるということがわかる資料を正確に読み取ることができる。

【b】もし自分がイギリス国民ならEU離脱に賛成か反対かを選択し、その理由をまとめ、相手に説明できる。

(3) 本時の準備物

教科書、地図帳、ワークシート

(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
10 分 導 入	・ 本時の目標を確認 ワークシートの配付 ・ ヨーロッパ統合によるメリットをクイズ形式で解く。（【ワーク 1】）	・ 見通しを持って授業に取り組めるように、本時の授業目的を明示する。 ・ 答え合わせを通じて、EU のメリットを確認する。	
35 分 展 開	・ 年表を見ながら、ヨーロッパ統合に結び付く重要なできごとを確認し、ヨーロッパ統合に至る経緯を理解する。 ・ EU の課題について、EU 加盟各国の月あたりの最低賃金や人口移動に関する資料を用いて考える。（【ワーク 2】） ・ イギリスが EU からなぜ離脱しようとしているのか、その理由を新聞記事を読んで考える。 ・ イギリスの EU 離脱の是非を考え、その理由を記述した後、隣の人と意見交換を行い、互いの意見を書き留める。（【ワーク 3】） ・ 全員に賛成か反対かを表明し、口頭で理由を発表する。	・ ヨーロッパ各国の協力の範囲が次第に広がっていったことを強調する。 ・ 机間指導で【ワーク 2】ができない生徒に、適宜ヒントを与える。 ・ 答え合わせを行い、EU の課題について確認する。 ・ 【ワーク 2】をふまえ、実際にイギリスの労働者がどのような意見をもっているのか、具体的に説明する。 ・ 机間指導で、どんな理由を書けばよいのか、学習した範囲でヒントを与える。意見を共有しやすいように生徒を促す。	【c】最低賃金の格差がおよそ何倍かが計算できている。なぜ賃金格差が生まれるのか書けている。（ワークシート） 【b】EU 離脱に賛成か反対かを判断し、その理由が書けている。また、自分自身の意見を隣の人に伝えることができ、隣の人の意見を他者に伝えることができている。（ワークシート）
5 分 ま と め	・ 学習内容を振り返る。 ワークシートの回収		

「観点別評価の判断基準」の設定

判断基準 評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 指導のてだて
【b】	EU離脱に賛成か、反対かを判断し、この単元で学んだことや諸資料から読み取った情報を根拠に記入している。	EU離脱に賛成か、反対かを判断し、この単元で学んだことを根拠に記入している。	隣の人と学び合いの時間を作り、授業で取り扱った資料や他者の意見を参考に根拠となる理由を考え直す。

